

当社社長の「2006年 新年挨拶」について

本1月4日、当社社長の高萩光紀は、2006年を迎えるにあたり、社員に対して新年の挨拶を行いました。
要旨は次のとおりです。

1. 昨年は、大型ハリケーンの直撃により米国の海上油田、製油所に甚大な被害が生じ、原油価格の一段の高騰を招来した。原油価格は、今後もかなりの期間にわたり高止まりの状況が継続すると思われ、国内の石油産業においては、引き続き厳しい経営環境が継続するものと判断せざるを得ない。
2. こうした中、当社が業界の上位各社に伍していくためには、グループの構成員全員が常に貪欲なまでの利益追求マインドを保持しながら業務に当たることが必要である。私は、質へのこだわりを徹底追求し、利益率業界No.1の会社にするとの強い決意を持って経営に臨む所存である。
3. 本年は“一面成長戦略、一面徹底効率化”を基本とし、「既存部門の競争力の徹底強化」、「鹿島製油所におけるアロマ生産設備の新設」、「CS経営の徹底」、「研究開発・事業開発のスピードアップ」などの重点項目に取り組んでいく。
4. 「CS経営」については、SS店頭から経営トップまで全員が「おもてなしの心」を共有することを目指す全グループ的な取り組みである。2006年を、オールJOMOのCS経営元年と位置付け、成長戦略の重要な柱として積極的に取り組んでいく。グループ構成員全員のCS向上に向けての意識改革を強く求めたい。
5. また、女性の一層の活躍につながる諸施策に鋭意取り組んでいきたい。女性の活躍できる風土作りは、少子高齢化が進展する中で、企業の競争力そのものを左右しかねない重大事である。
6. 新日鉱グループは、昨年12月26日に創業100周年を迎えた。本年は、まさに新たなる世紀の始まりの年に当たる。当社は、新日鉱グループの大黒柱であり、今後とも収益基盤の強化をはじめ規模に相応しい役割を担っていかねばならない。

以上